

年始妙高山行報告 (2019/1/3 - 1/6)

小雪の今シーズンの年始休暇を利用して、積雪の多い妙高方面に初すべりを実施した。スキー道具の不調や、体調不良もあったものの、予定していた山行を実施することができ、極上のシルキーパウダー三昧の滑降も堪能できるなど、満足できるものであった。以下、簡単に報告します。

参加者 W, N 2名

報告 W

1/2 夜 神戸出発。今回参加者は2名のみで交代で運転し、4:00 ごろシャルマン火打の駐車場に到着し、仮眠。

1/3 シャルマン火打

降雪が続いており、仮眠中にも車の周りが埋まっていた。

8:30 開始のリフトに乗るべく準備。せっかくの新雪なので、午前券（3000円、シニア2000円）を購入し、1時間ほど非圧雪宣言の斜面を堪能後に入山する予定にした。降雪はひどくなり、ガスで視界も悪い中、入山の様子見の意味もあって、リフト+滑降を繰り返していた。新雪滑降に不慣れなN氏の滑降練習の意味もあった。ゲレンデ滑降中に、N氏の片足のビンディングがやたら外れて、転倒続出。最終的には、リューシュも切れて頭から雪に突っ込み、起き上がれなくなっていた。

最初はもがいていたが、そのうち動きもなくなり、もしや窒息状態との悪い予感がよぎり、あわてて雪を掻き出し始めるも、どこが頭かわからない状態。何とか、落ち着いて掘り出して難無きを得たが、その後スキーとストックを探し出すのにも時間を要した。

よく見るとスキー靴のソールが剥がれ掛けていて、そこに雪が入って、十分にビンディング固定ができていない模様。このままでは、とても入山もできないと判断して、入山届を出したパトロールに入山しない旨連絡し、ゲレンデを後にした。能生市内のホームセンタにいて、接着剤とリューシュ代わりのスパイラルワイヤを購入して、何とか明日以降の山行が可能な状態に修復することができた。この日は、ゲストハウス山楽に宿泊(3000円)。広い相部屋に4名だけの宿泊で、テントをかぶせ

て寒さをしのげる工夫をしていた。リビングとなる大広間はストーブと炬燵が複数あって快適であった。

1/4 赤倉観光スキー場から前山、滝沢尾根滑降

5:30 起床し、早朝から妙高赤倉観光スキー場へ移動。快晴。この日も午前券（2900 円）を購入し、何本かのリフト+滑降で、昨日の不具合修復状態を確認してからの入山とした。赤倉のチャンピオンコースなどを滑降しても問題なさそうなので、ホテル第 5 リフト終点から前山入山（10:20）。すでにトレースがあって、快調に登っていく。ただ、メンバー W の体調不良もあり休憩を多くとりながらの登行となる。それでも、快晴の中、日本海や遠く富士山まで見渡せる絶好の山日和に、多くのパーティが前山を目指していた。中には外人のパーティもいて、バックカントリーも国際化しているのを感じた。雪も軽くパウダー滑降が期待できる。黙々と登り続けると、やがて前山に 2 番手で到着(12:00)。先頭でラッセルしてくれた方にお礼を言う。この方は地元のガイドとのこと、我々がノートラックの滝沢尾根を滑降することを遠慮していたら、先にどうぞと言ってくれた。

ということで、全くラッセルもせずに、この日の滝沢尾根ファーストトラックを堪能することができた(12:30)。雪は軽く、気持ちよかったが、ところどころで藪が濃くなり進路をふさいだ状態になって、コースどりに苦労する場面もあったが、ブナ林ではすこぶる軽いパウダーを十分に堪能することができた。

滝沢尾根の最終地点の谷に降りた所(14:00)で、ガイドパーティとも合流し、再度シールを付けてゲレンデに戻った(14:45)。ただ、以前このコースを通った時とは違う戻り方であり、シール脱着の時期が早かったのが若干のミス。いずれにしても快晴・好天の中のパウダーランに満足の山行になった。

この日は、杉の原スキー場への途中の「空飛ぶウサギ」のドミトリー（2500 円/人）に宿泊。大きな風呂と台所も使い放題で快適な宿であった。



ヤマレコ報告

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-1698282.html>

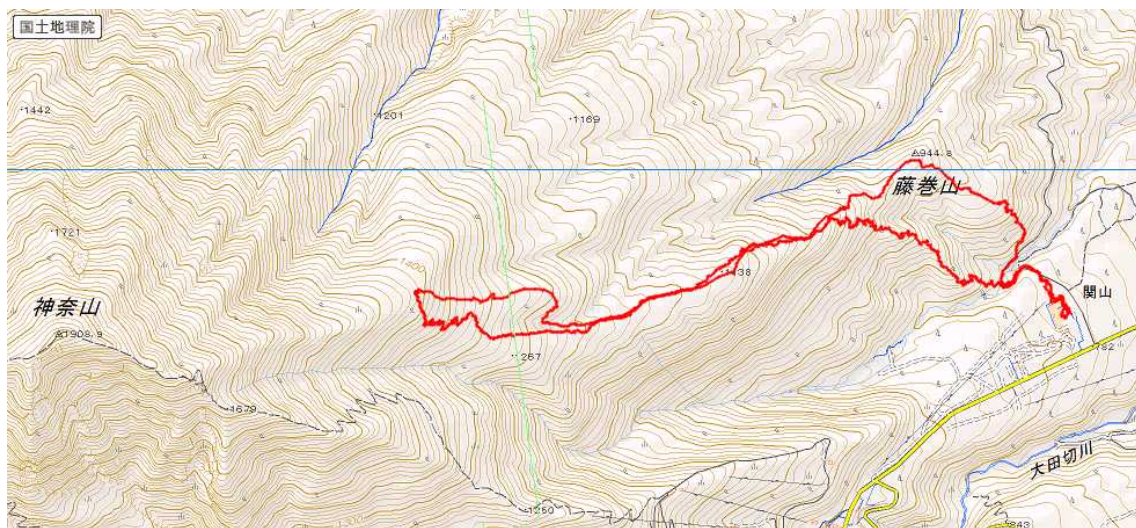
1/5 国民宿舎妙高から藤巻尾根

国民宿舎妙高の駐車場からルンルススキー場を横切って、林道に入る (7:40)。ここでも前日の

トレースがあって、ありがたく使わせてもらう。この日もWの調子は悪く、頻繁に小休止を繰り返しながらの登行を続ける。時々日はさすものの曇りの天候であったが、やがて湿り雪が降り出してきた。当初予定の標高 1400m の森林限界まで登りあげたところで、ガスも多くなってきたので登行終了(10:00)。

ここからは、お楽しみของブナ林のパウダーランの開始。滝沢尾根のような藪の邪魔もなく、広い林間のパウダーを十分に堪能することができた。写真を取り合いながらも、あっという間に滑降を終え、藤巻山からのやや急斜面を斜滑降で下れば林道に合流(11:10)。スキー場への林道の登りでは、やはりシールを付けた方が苦労はなかった。

山行終了時刻 11:40。雨状態の降雪を避けて、早めに戻れてよかった。宿に戻って、のんびりと過ごす。





ヤマレコ報告

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-1698385.html>

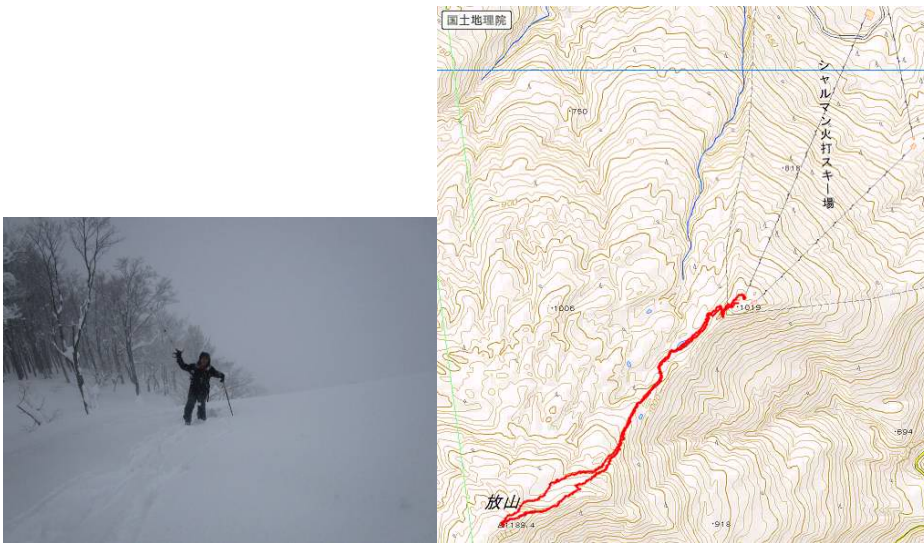
1/6 シャルマン火打から放山往復

5:30 起床で、妙高を後にシャルマンに向かう。前日からの降雪で、車を掘り出すのにも苦勞である。能生 IC までは、積雪高速に慎重な運転を強いられ、緊張する。前車がスリップして横向きになってしまった時にはキモを冷やしたが、車間を確保していたので、ぶつからずに済んだ。能生 IC あたりでは、雨模様で積雪もほとんどなく心配したが、シャルマンに向かうと徐々に積雪も増えスキー場駐車場では十分な新雪積雪があった。

1 回券（500 円）を購入して、スキー場 TOP から入山（8:50）。今山行で初めてノートレースのラッセルとなった。やや複雑な地形にルートどりを工夫しながら、N 氏主体にラッセルで進む。この日も W の体調はいまいち。放山頂上到着が 10:20。視界は悪く、雪も降っているが、風がないのがせめてもの救い。シールを剥がして頂上からの急斜面パウダーをいただく。短いものの気持ちよくターンが

決まってあつという間に谷筋に入る。その後は、斜度もゆるく基本下りラッセルとなって苦労する。登りのトレース沿いにスキー場 TOP に戻ってこの日の山行は早々に終了(11:25)。次回は、別ルートでより滑走を楽しめるコースをトライしたい。

山楽前の食堂でミニかつ丼を食べて、帰神。渋滞もなく 18:00 ごろには大阪に戻り、今回の山行は終了。ただ、妙高までは往復 1300km。参加者 2 名では、交通費もばかにならないが、小雪の今シーズン、メンバーがそろえば土日のみでも山域候補としては有力になるかもしれない。



ヤマレコ報告

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-1698459.html>